

1 月定例記者会見の概要

- 1 日 時 令和 5 年 1 月 5 日（木）10 時 00 分～11 時 00 分
- 2 場 所 本庁舎 3 階 第一会議室
- 3 出席者 <報道機関>
 - ① 河北新報社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
 - ② 読売新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
 - ③ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）
 - ④ 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）

計 4 社

< 市側 >

・市長・総務部長

(テレビ会議)

- ・新田副市長・常木副市長・小高区役所長・鹿島区役所長
- ・復興企画部長・復興企画部政策担当理事
- ・市民生活部長・健康福祉部長
- ・健康福祉部新型コロナ対策担当理事・こども未来部長
- ・経済部農林水産担当理事・経済部企業支援担当理事
- ・建設部長・総合病院事務部長・教育委員会事務局長
- ・観光交流課長

計 17 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

皆様、明けましておめでとうございます。

記者の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜びを申し上げます。旧年中は、市政に対し格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

早速ですが、年頭あいさつを兼ねて、市政報告をさせていただきます。

令和 4 年を振り返りますと、真っ先に思い起されるのは、3 月に発生した福島県沖地震です。市では家屋の修理費用の補助や災害見舞金などの各種支援制度を設け、復旧に向け取り組んでおりますが、いまだ不便な生活を強いられている市民の皆様も多くいらっしゃいます。引き続き、被災された皆様の生活再建をサポートしてまいります。

一方で令和 4 年は、相馬野馬追を 3 年ぶりに通常開催するなど、コロナと共生を図りながら、様々なことに取り組んだ一年でもありました。

人材育成の取り組みとしては、3 月に事業構想大学院大学と連携協定を締結し、「南相馬市プロジェクト研究」を立ち上げました。市内外から集まった研究生は同

大学の指導の下で「南相馬鹿島サービスエリアなどのポテンシャル、多様な地域資源を活用した事業構想の構築」をテーマに地域活性化策の検討に取り組んでいます。加えて、4月から市職員1名を同大学に派遣し、修士課程で事業構想などを学んでいます。

子育てに関する取り組みとしては、4月に「こども・子育て応援条例」を制定し、8月には公益社団法人日本青年会議所が提唱する「ベビーファースト運動」に市内事業所と共に参画、11月には「こども未来フェスティバル」を開催するなど、地域全体で子育てに取り組む機運の醸成を図りました。

また、新たな経済的支援策として、学校給食費の無償化を開始いたしました。

企業進出の動きとしては、5月に株式会社アイリスプロダクト様の南相馬工場、12月には富士基礎機械株式会社様の福島工場が竣工しました。株式会社アルカリス様の南相馬市工場も今年7月末の竣工を目指して建設中です。

移住定住の取り組みとしては、7月にみなみそうま移住相談窓口「よりみち」を開設いたしました。12月には、小高区でクリエイターの集積を通じた人材育成や地域活性化を図るため、Septeni Ad Creative 株式会社様、株式会社小高ワーカーズベース様と連携協定を締結いたしました。すでに、3名の方々が小高区でインターネット広告の技術などを学んでいます。

農業分野の取り組みとしては、3月にJAふくしま未来様による小高園芸団地が稼働を開始しました。旧避難指示区域内での水稻育苗やキュウリを中心とした園芸作物の振興に力を入れており、今後ますます営農再開が進むものと期待しております。10月には、福島県出身力士である大波三兄弟の皆様に、南相馬米のPR大使に就任いただき、南相馬米の販路開拓や消費拡大に一役かっただきました。

加えて、市内で活躍される皆様が荣誉ある賞を受賞され、多くの嬉しいニュースがとびこんできた1年でもありました。

9月には小高ワーカーズベース様が、起業家などが参加するICCサミットのプレゼンテーションコンテストで優勝され、小高区在住の作家、柳美里さんがバークレー日本賞を受賞されたことが発表されました。

10月には高ライスセンター様が農林水産祭の農産・蚕糸部門で天皇杯を受賞、バー「ウィザード」の草野聡さんが全国バーテンダー技能競技大会で準優勝を収めたほか、半谷商店の半谷克敏さんは洋菓子コンテストで農林水産大臣賞を受賞されました。11月には、日本学校合奏コンクールで石神第二小学校の吹奏楽部が金賞、県教育長賞を受賞されました。

ただいまご紹介した皆様以外にも数多くの受賞報告をいただいております、改めてお祝い申し上げます。

さて、本年令和5年に目を向けますと、「南相馬市第三次総合計画」スタートの年となります。これまで、市民誰もがこの地で家族や友人とともに暮らし続けることのできる「100年のまちづくり」を目指してまいりました。この取組をより確かなものにするため、「今後8年間のまちづくりの基本姿勢」を3つ掲げました。

一つ目は「つなぐ」です。今まで積み重ねてきた努力の成果をかたちとし、次の世代へしっかりと「つなぐ」ことで、持続可能なまちを目指します。

二つ目は「よりそう」です。個人の様々な人生観・価値観・慣習などを理解し、尊重しつつ、互いに思いやり、「よりそう」ことで、夢や希望を実現できる共生のまちを目指します。

三つ目は「いどむ」です。前例に捉われない柔軟な発想を持つとともに、様々な困難を飛躍の機会と捉えるなど、何事にも「いどむ」ことで、未来に向かい進み続けられるまちを目指します。

本年も市の情報発信にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、前回 12 月 5 日の記者会見から最近までの出来事についてご報告申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症についてです。

オミクロン株に対応した新型コロナワクチンの集団接種は、12 月 24 日に終了いたしました。国のワクチン接種記録システムにおける 12 月 25 日時点のオミクロン株対応ワクチン接種率は、全国平均で 33.7%、南相馬市では 69.1%となりました。

これまでに接種を受けることができなかった方のため、1 月から 3 月の期間で、日程を追加して接種を実施いたします。

また、5 歳から 11 歳の小児の接種も実施いたします。

市民の皆様におかれましては、基本的な感染対策の徹底と、ワクチン接種の検討をお願いいたします。

次に、小高区子どもの遊び場についてです。

12 月 17 日に「小高区子どもの遊び場 N I K O パーク来場者 5 万人達成記念イベント」を開催し、265 名の皆様にご来場いただきました。

令和 3 年 4 月 3 日のオープン以来、感染症対策のため入場制限を行った時期もございましたが、おおむね市の見込みどおり、約 1 年 8 か月で 5 万人を達成することができました。今後とも、安全安心に楽しくご利用いただけるよう施設の運営に努めてまいります。

次に、市議会定例会についてです。

第 8 回南相馬市議会定例会は、12 月 26 日に閉会しました。

この議会では、「南相馬市第三次総合計画基本構想」をはじめ追加提案を含む議案 41 件について、全て原案どおり可決、同意されました。

次に移住定住に関するランキングについてです。

昨日 1 月 4 日に発行された宝島社「田舎暮らしの本」2 月号の 2023 年版住みたい田舎ベストランキングの総合部門と子育て世代が住みたいまち部門において県内 1 位、加えて、子育て世代が住みたいまち部門では東北エリアで 2 位となることができました。

引き続き、若い世代の移住促進、子育て世代に選ばれるまちづくりに取り組んでまいります。

続いて、今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、二十歳を祝う会についてです。

市では、今まで開催していた「成人式」を「二十歳を祝う会」に改め、1月8日に市民文化会館「ゆめはっと」で式典を開催いたします。

現在のところ387名の方から参加申込をいただいている状況です。

次に、空き家対策についてです。

現在、市内の空き家は約千棟あり、今後さらに増えることが予想されています。

このような状況を踏まえ、市では空き家と空き地の適正な管理と利活用を促進するため、1月10日に、空き家と住まいの相談窓口を開所いたします。また、相談窓口の場所は、原町区の移住相談窓口「よりみち」の隣とすることから、移住定住を希望する方へこれまでよりもスムーズな物件紹介が可能となる見込みです。

窓口では、市内の不動産関係団体で構成される「南相馬空き家・空き地サポートセンター」が空き家に関する相談対応や各種支援制度などを紹介するほか、情報発信や実態調査などに取り組む予定です。

【質疑応答】

質問1：

「田舎暮らしの本」の住みたい田舎ベストランキングについて、東北エリアの総合部門で第4位、子育て世代が住みたいまちでは2位となりましたが、こういった点が評価されたとお考えでしょうか。

また、今後どのようなまちづくりを取り組んでいくのか教えてください。

回答1：市長

本市では全ての世代が安心して暮らせるまちづくりに取り組んでおり、加えて近年は、給食費の無償化など子育て世代に選ばれるまちを目指した施策を実行してまいりました。そういった各方面における多様な取り組みが評価されたものと捉えております。

一方で、他の自治体も新たな施策を始めています。本市も現状に満足することなく、まさに「いどむ」思いで様々なことに取り組んでまいりたいと思います。

質問2：

空き家と住まいの相談窓口について、相談員を勤めるのは市職員ではなく、民間の不動産関係者なのでしょうか。

回答2：市長

市から職員を派遣することも考えていますが、実際に相談対応などを行う方は別途採用を予定しております。詳細は建設部長から説明いたします。

回答2：建設部長

1月10日に1名採用し、4月に2名採用する予定です。加えて、市の事業である空き家空き地バンクの業務を移行するため、市の職員2名を派遣する予定です。

質問3：

南相馬市の新型コロナワクチンの接種率が高いことについて、その理由と受け止

めを教えてください。

回答3：市長

大きく二つの理由があると考えています。

一つ目は医師会をはじめとした関係団体やボランティアの皆様の協力、全庁あげて職員が業務に就いたこと等により、集団接種を実施できたことです。

二つ目としては、市民の皆様の理解があったことです。震災や原発事故を乗り越えて、互いに寄り添う気持ちを持った多くの市民の皆様のおかげです。日時指定の集団接種に対する苦情もほとんどありませんでした。ワクチンの副反応等については不安もあったかと思いますが、家族をはじめとした周囲の人々のため、接種を受けた方が多くいらっしゃいました。

以上